

1991 年度上半期報告書

一橋山岳部

1. 新人歓迎山行(鴨沢～雲取山～石尾根～奥多摩駅)

メンバー:天羽、田形、砂永(1年)、青野(1年)

5/4 立川に7時集合、奥多摩8時30分の鴨沢行のバスに乗る。新歓山行ということで東京最高峰の雲取山に登ることにする。雲取山に登ることが主目的なら、鴨沢から登るのが一番速い。1年生は新歓山行ということで、荷物をほとんど持っていなかったもので、歩くペースはなかなかよかった。予定通りのペースで、石尾根に出る。当初は雲取山荘そばで泊まる予定だったが奥多摩山屋の近くのテント場で泊まることにする。雲取山にはピストンですませる。後からOBの西牟田さんもテントに合流、この日の夜は新歓山行ということで、豪華だった。

5/5 この日はテント場から石尾根を使って奥多摩駅へ降りるだけ、ただ途中で(かなり下の方)道を直進すべき所を右の道を使ってしまったため、沢筋に降りてしまい時間をくってしまった。ここは直進すべきであったろう。(文責:田形)

2. 市ノ沢 (奥秩父)

メンバー:田形、古田、砂永

5/18 車で奥秩父へと向かう。沢の出合に着いたと思い、車を止め沢筋に降りるが、実はもっと上流だった。貯水池がある所まで車で行くべきであった。沢自体は、さして難しくないし、天気も良かった。初心者連れて行っても、十分、大丈夫だろう。ザイルも必要はない。ただ、下降ルートは、他にとらなければならないか、それともまた沢へとおるかしかなないので、初心者はイヤかもしれない。この日は、暖かく、寝る時もツェルトなしでOKだった。

5/19 コケがある沢に登る。沢自体の雰囲気は、あまり明るくない。沢をつめると、雲取山などが見える、斜面に出る。和名倉山まで行く予定だったが、結局、途中から下降することにした。下降もそれほど難しくはなかった。ザイルも必要なかった。(文責:田形)

3. 水根沢溯行

6月2日 天羽、寺島、山内(OB)

小雨の降ったり止んだりの中、朝8時に国立正門前に集合。天羽さんの車で出発する。途中、古田さんを小平に置き去りにするというトラブルもあったが、三人とも深く考えずに奥多摩のドライブを楽しむ。自分は沢は初めてで不安もあったが最初から楽しく登れた。懸垂下降も経験した後、「この先も似たようなもの」ということで、午後2時頃、濡れた体を震わせながら沢を出て、小雨の中、とっとと脇の山道から帰る。

4. 小川谷

6月9日 (古田、又賀、古瀬、砂永、和田)

天気:晴

9 時頃遡行開始。古瀬、和田にとっては初めての山行となったが、天気も良く、途中にはきれいなプールがたくさんあったりして楽しい沢であった。ただ個人的(和田)には滝を登るのに非常に時間がかかったり、また遡行終了点にメガネを忘れてしまったりして、みんなに迷惑をかけ、同時にグツタリしてしまう1日となった。12:00 ごろ遡行終了。

5. 唐松谷遡行

6/22~6/23 メンバー:古田、田形、秋元、砂永、和田、古瀬

6/22 <小雨> 15:00 小平を車で出発。日原林道の途中まで車で入り30分程歩いた所で幕営。

6/23<曇> 林道から左の谷へ下り、吊り橋から沢に入る。陽光が少なく岩が黒いせいで、沢全体の印象は暗い感じ。初心者の一年も十分楽しめる。右手に登山道が見えて来るともう直ぐ遡行終了で左手を登って登山道に出る。田形さんが登山道と車道で2度事故をおこした。

6. 雪山訓練合宿

6月29~30日 天羽・田形・寺島・秋本・砂永・古瀬・和田・山内(OB)・古田

29日 甲府駅⇒(タクシー)⇒広河原⇒白根御池 幕営 XX

タクシー2台に分乗して駅を出発。広河原で水を補給して山道を登り始める。途中、雨に降られ岩陰で雨宿りをしたため予定より少し遅れて白根御池に着く。テントを設営した後、訓練のため大樺沢に行く。この日はキックステップ、ピッケルストップの練習を行ったがそれにしてもこの日の夕飯の具として肉がなかったのは、訓練のためだろうか、それとも金欠のせいだろうか。

30日 雪訓 白根御池⇒広河原⇒タクシー⇒甲府駅

入部以来初めてマルタイを食べる。それ程まずいとは感じなかった。それよりもあ然としたのは、前日の晩、先輩方に見習ってテントの外に置いていた登山靴の中に、夜中の雨であふれんばかりの水が溜まっていたことである。自己脱出、スタンディングアックスを加えた練習を行う。天候が悪かったため、北岳頂上には行かないこととし、訓練終了後テントを撤収して下山した。

7. 大雪山 山行

7/31~8/7(~8/10 XX)

旭岳温泉—旭岳—忠別岳—化雪岳—天人峡—クワウンナイトムラウシ山—トムラウシ温泉—新得—斜里

メンバーC.L.天羽、S.L.田形、寺島、秋元、和田、古瀬

7/31 夜行列車で上野発

8/1 旭川駅でステーションビバーク

* 正確な記録を紛失してしたことをお詫びします。

* 7/30の夜はなぜか救急車が出る騒ぎになりましたが、このことと31日の夜行に寺島さんが遅れそうになったこととの関係については不明。

8/2 <ガス> 旭川→バス→旭岳温泉→旭岳→旭岳キャンプ場

旭川市内から曇りで旭岳温泉では既にガスの中。気が重いが差し入れのスイカを片付けて出発する。初めの樹林帯はぐしょぐしょの最悪の道。姿見の池までに寺島さん遅れる。池が全く見えない程の濃霧で視界は 20~30m だろうか。その中を硫黄臭のする砂の急斜面を直登。展望が全くなく、凍えるような山頂をさっさと離れ、直下の幕営地まで雪渓を越えてひと下り。

8/3 <ガスのち曇> 出発—北海岳—忠別岳—忠別小屋キャンプ地

濃霧に加え風も強く、ひどく寒い。白雲分岐まで視界は相変わらずだが、迷うような分岐もなく、道もはっきりしており、登山者も多い。白雲分岐から白雲岳へはもちろん登らないことにする。リスがいる白雲石室からガスは薄らぎ、風もなくなる。コマクサの咲く平坦な道をゆく。大雪温泉への分岐は、はっきりした道標あり。忠別山頂で時間的に早い疲労度を考えて忠別小屋止まりということにする。小屋への道は背丈程のハイマツの中を 10 分歩き、最後に雪渓をわたる。キャンプ場は小川を囲んだハイマツの中にあり過ごしやすい。ただ人がかなり多い。

8/4 <晴のち曇> 出発—化雲岳—天人峡

五色岳のゆるやかな登りから始まる。人はいたが、早朝、しかもハイマツ帯なので熊よけの笛を吹きながら行く。化雲岳まではお花畑のだから歩き。小化雲岳からの道は、段差の大きな泥道で、全く閉口。ただ途中にワタスゲの湿原があり、霧の中に幻想的な絵を見せてくれた。樹林帯に入り、羽衣の滝を右に見てつづら折りの急坂を下って天人峡温泉に着く。敷島荘の裏に一夜の宿をとる。各自ホテルの温泉につかり、リラックス！（以降ほとんど温泉めぐりの様相を呈する）

8/5 <晴から小雨> 出発—ボンクワウンナイ川出合—カウ沢出合—魚止めの滝

バス道から林道に入るがその際立入禁止の立て札を無視して行く。出合で装備をつけ、林道から川原におりる。前方に数名先行パーティーがいる。天気もまずまずで、広々した河原をちゃぷちゃぷ水に浸かって歩く。水量はさほどなかったが太腿までつ浸かったこともある。3 時間で川幅狭まり大きな高巻きを 2、3 度した。ザイルを 2 度使った。カウ沢付近は石が大きく歩きづらく、いらいらする。カウ沢のキャンプ地に人が多く、時間的にも可能なので魚止め滝まで頑張る。天気が悪化した何とか滝に着き、滝を目の前にした左岸のキャンプ地に幕営する。テント 2 張り分くらいで、右岸にも 2 張り分程の場所があった。たき火で体を温め、滝の音を聞きながら就寝。

8/6 <曇後晴> 出発—天沼(縦走路—トムラウシ山—直下の幕営地

朝、木の葉の間から星が見え、ほっとする。キャンプ地の背後のガケが巻き道になっており、これを越えるとそこはナメの始まりだった。さらに一つ大きな滝を巻いてそこから滝の瀬十三丁に入る。水草を踏む溪流足袋を信じて縦横無尽に歩きまわる。(寺島さんがナメですべて濡れたという話を後に聞いた。結構危なかったそうだ。)ナメが終わり河原の歩きに戻る。最後の大滝の高巻きの岩場には古いザイルがついており(この岩場に苦労した。)これを越えると源頭部に入り、やぶの中では笛を吹き、明るい草原に出る。水流無くなる辺りの道は分りにくい。溶岩帯はナキウサギのすみかで、道は明瞭、天気良好。最後雪渓を渡って縦走路に合流する。北沼まで進んで休憩。すばらしい開放感にひたる。北沼からトムラウシ山頂へは、コースが入り組んでおりガスが出ると迷いそう。(右の沼の方へ行くと頂上を巻いてしまうようだ。)山頂付近の岩場を乗り切って、山頂で 1 時間の休止。旭岳から石狩、十勝方面までカンペキな眺望。山頂の住人らしいシマリスも現れ

て「至福のひとつとき」。山頂直下のキャンプ地は広く、人も多い。雪渓が小さく、水が少ないのが玉にキズ。すばらしい夕陽を眺めて、明日は下山か。

8/7 <晴> 出発(5:15)—トムラウシ温泉(9:30 着)⇒新得⇒釧路

キャンプ地から沢の源頭に達するまで Up-Down を繰り返す。沢に入れば下るだけ。最後隊列がばらばらになったが、無事トムラウシ温泉に到着する。途中から抜きつ抜かれつだった学芸大 W.V の三人の女の子と一緒に(?)に早速温泉に入る。充分くつろぎ、昼頃バスで新得に出、釧路に向かい、夜到着。「OK 牧場」で知床に向け大いに鋭気を養う。

補足:

計画で想定通り、技術的な問題はほとんどなく、体力、時間との勝負となった。二度にわたって火器がテント内で火を吹いたことや、パッキングに手間どったこと等、生活技術上の問題は大いに残った。が行程は計画通り。天候もまずまずで、恐れていたヒグマなど影もカタチも声もニオイもせず、また一年の僕にはある程度の自信になったという点でも良い山行だったように思う。

8. 夏合宿後半・知床

(天羽・田形・寺島・秋元・和田)

8/9 雨のち晴 4:00 起床—5:30 出発—12:00 羅臼平

予定ではこの日のうちに二つ池まで行くはずだったが天気その他の条件により羅臼平に泊。羅臼平付近はガスがかかると目標物もなく迷いやすい。また手前の雪渓はクラストしていたので念のためザイルを張った。とにかくこの日はめっちゃめっちゃ寒く夏とは思えないほどだったがテン場から見た夕焼けが素晴らしくきれいであった。

8/10 霧のち晴 3:10 起床—9:25 発—10:05 羅臼岳—10:45 同発—11:15 幕営地—11:50 同発—14:30 二つ池

今日中に下山しようと早起きしたものの、外は霧で何も見えない。エスケープルートを使って岩尾別温泉に降りてしまうという考えも出たが、やはり最後まで計画通りやりぬこうということになる。9時過ぎに晴れて来たので荷物を置いて羅臼岳に往復した後、二つ池まで行く。二つ池付近は水場もいいのがないし熊も出そうで怖い。

8/11 曇のち晴 4:00 起床—5:20 発—8:05 硫黄岳—11:00 登山口

外輪コース途中のキレットを無事通過し硫黄岳に至る。頂上からは雲間から国後島の山(らしきもの)が見え、ちょっと感動した。そこから登山口まで約 2 時間半。晴れた空の下、澄みきった海を見ながら、長い夏合宿のフィナーレを飾るにふさわしい爽快な下山であった。

利尻

(和田)

8/12 札幌→稚内→鴛泊

野球場の三塁側ベンチで寝る用意をしていると立教大ワングルの人 2 人が来る。彼らは十勝岳の方から大雪縦走をやったとのこと。途中ですれ違ったかもしれない。

8/13 6:00 起床 6:30 発 10:00 頂上 11:00 同発 2:30 沓形 晴

立教の 2 人はさっさと先にいってしまう。3 合目までの登山道は既に廃道同然だったのでやむなく車道を行く。頂上付近は崩壊激しい。以下 1 行解読できない。

9. 谷川山系偵察山行（白毛門—朝日岳—清水峠—谷川岳—万太郎山—仙倉山—平標山—元橋）

10 月 5、6、7 日

メンバー（天羽・和田）

1 日目 <土合 6:25—白毛門 9:25—笠ヶ岳 10:20—（曇）—朝日岳 11:40—清水峠 13:50>

（雨ときどき曇）

出発から天気が悪い。偵察用に写真を撮ろうにも、撮れそうにない。いきなり白毛門の登りがきつい。上部でたまに霧が晴れると紅葉の景色がさっと広がる。夜行での山行に慣れていない和田は、風の強い朝日岳の山頂で眠ってしまう。そこで、蓬峠までの予定を変更し、清水峠の小屋に泊まる。快適。

2 日目 <出発 6:30—蓬峠 7:30—武能岳 8:30—茂倉岳 10:30—谷川岳 12:00—大障子小屋 14:00>

（雨）

昨日よりも天気が悪い。視界はほとんどなく、小雨が降り続く。ぐちより濡れたので、力を失い、武能岳の登りで疲れ果ててしまう。そして茂倉岳の避難小屋で体の芯から温めようと、紅茶を飲む。谷川岳から、余り快適でない道をすすみ、なんとか大障子小屋へ。水場は、横の沢を下った所、往復で 30 分以上かかる。

3 日目 <出発 6:30—万太郎山 7:30—仙倉山 11:00—平標山 12:00—元橋 14:00>

（雨）

夜は強風でどうなることかと思っただが、朝は風がおだやかになっていた。特に難所はないが、up—downがきつい。仙ノ倉から平標の間は、尾根が広く迷い易い。少々雪まじりとなった。平標からは松手山・元橋へ向かって下りる。途中、ガレガレの下りが数百mあり嫌だが、後は楽で、鉄塔が良いポイントに 2 つあり、迷うことはないだろう。

今回は偵察山行だったが、視界が非常に悪く、あまり役に立たなかった。

10. 春山偵察山行（甲斐大泉～権現岳～赤岳～硫黄岳～赤岳鉱泉）

メンバー：田形、寺島、秋元

10/5 10/4 の夜に甲斐大泉駅に着く。朝出発する時に、雨が降り始めた。コンクリート道が終わって、登山口に着くと、雨が激しくなって来た。この日は尾根をひたすら登って、権現岳を通過して、キレット小屋で、テントを張る予定だった。この尾根自体は、迷うような所はなく、危険な場所は余りない。ただ、権現岳直下は、少し岩っぽく、雪が着いたらどうなるのだろうか。また、春になったら、

この尾根では、かなりのラッセルが強いられると思われる。だから、春行くとしたら、この尾根の途中で、1泊する必要が出て来るであろう。結局この日は、天候不良、田形の体調絶不調により権現小屋でテントを張ることにした。

10/6 朝出る時は、雨は降っていなかったが、ガスっていて、気温は低かった。もう一回、権現岳に登り直し、赤岳とのキレットに降りる。ここに降りる時は、鉄製の、かなり長いハシゴがあった。雪が降っても、このハシゴは埋まらないとのことだった。キレットおりて、赤岳へと急登する。途中からは岩だけとなる。雪がついたならば、馴れないメンバーには、難しく感じるであろう。赤岳を越えて、硫黄岳へ向かったが、横岳付近の岩稜も、春には気をつける必要がある。(分責:田形)

11. 北八ヶ岳 冬山偵察

(秋元、和田)

10/18 立川==茅野

秋元が 5:25 発に乗ろうというので立川に行ってみるとそんな電車はない。時刻表で朝の 5 時台のところを調べていたのであった。

10/19 茅野 6:20→美濃戸口→赤岳鉱泉 10:00→硫黄岳→東天狗岳→黒百合平 15:00

夜中、電車の音がうるさくてよく寝られず、また二人とも目覚まし時計を持っていなかったの朝から寝坊し、朝食を摂らないままバスに飛び乗る。だが美濃戸口でラーメンを作るためホエーブスのポンピングをしていると突如火を吹いたので水をかけて消す。結局この日は朝メシ抜きで出発したが、夕食を作れなかったらどうしようかと戦々恐々であった。コース的には東天狗以外これと言った難所もなくそれほど迷い易そうな所もないように思われた。なお黒百合平到着後バスを点検しようやらネジが十分締まっていなかったことが原因だとわかり、無事夕食を作ることが出来た。よかったよかった。

10/20 5:00 起床 6:00 幕営地初 8:00 麦草峠着—帰京

麦草峠の犬が可愛かった。帰ると日本シリーズ第二戦をテレビでやっていた。

12. 冬山合宿偵察山行(麦草峠～縞枯山～横岳～大岳～双子池)

10 月 26～27 日 寺島、古瀬

26 日 茅野駅=バス=麦草峠—縞枯山—横岳—大岳—双子池

麦草峠で水を補給した後、出発。澄んだ秋空の下、赤布を付けながら、のんびりと山行を楽しむ。それでも、昼過ぎにはキャンプ場の双子池に着いてしまう。ここのキャンプ場は車で来られるため、雄池では、ゴムボートでルアーフィッシングをしていた。我々はすることもないので、日本シリーズをひたすらラジオで聞いていた。この日の結果は忘れてしまったが、実況アナが「(広島)の音は今日は音なし」と言っていたのだけは忘れない。

27 日 双子池幕営地—双子山—蓼科山—親湯入口=バス=茅野駅

前夜から雨。しばらく様子を見てから出発。雨に濡れながらもひたすら歩く。前掛山付近が倒木が

多く分り難かった他は、特に問題なく進む。蓼科山頂は風が強く、しかも雨のため展望も効かなかったもので、そそくさと降りる。親湯からは別荘街の中の車道を親湯入口まで歩き、バスに乗り茅野駅へ。

13. 中央アルプス

(木曾福島Bコース—木曾駒ヶ岳—空木岳—越百山—伊奈川ダム)

11月2、3、4日 メンバー(天羽、寺島)

1日目 大原 8:10—スキー場 8:50—4合目 10:50—7合目 12:20—テント場 15:00

(晴)

バスを下り、スキー場まで車道を歩く。スキー場を横切るのがちゃんと看板が出ている。尾根道までは、比較的直ぐに着くが、7合目の小屋までの登りがつらい。夜行でほとんど眠れなかったため、2人とも疲れが出る。駒ヶ岳をトラバースして、先にテント場へ行く。雪渓はなく、水がないので、8合目の水場で補給する必要がある。山頂に登ると南アルプスが良く見え、きれいだった。

2日目 出発 6:15—空木岳 13:15—播鉢窪避難小屋 14:30

(晴)

このコースも尾根上に水場がない。宝剣岳は鎖場の連続だが、朝早いこともあって、楽に抜ける。その後は余り特徴的な山がなく、何となく幾つかのピークを越える。木曾殿で水を補給するが倉本方面へ、思ったよりも遠い所に水場はある。そしていよいよ空木岳への登りとなる。ここは結構きつい。上部は岩っぽい。一度南側に回り込みもう一度稜線に戻る。一般登山道としては、鎖を付けた方が良いと思われる所が数箇所ある。山頂に着くと、東部はなだらかで、駒ヶ根の町も見下ろせ、少々ほっとした気分を味わった。程無く、播鉢窪避難小屋に着く。水場はこの小屋の裏の崖の下にあるらしいが、崖を下りるのは恐ろしかったので、小屋の横の鍋にあった水を沸かして、この日の夕食のスパゲティをゆでた。小屋は広い。

3日目 出発 6:00—越百山 8:30—車道 10:30—伊奈川ダム 11:30

(霧→霧雨)

前の2日と違って変わって外へ出ると霧で視界が最悪だった。稜線上は風が強く、吹き付けられた空気中の水分がすべて霜状になって辺り一面、霜だらけになっていて、美しい霜の風紋が出来ていた。所々にある岩は、白く化粧されていたので、滑らないように慎重に進む。途中の仙人涯嶺付近は道がぐねぐねしていて、方向感覚が完全に狂わされてしまった。越百山を東側に入ると小雨になった。森林帯の快適な下りで先程とは違って変わり女性的な雰囲気になる。ダムの辺りは、きれいな紅葉だった。林業の人のバンに乗せてもらって駅まで行った。

今回の山行は、寺島が単独行として計画したものだったが、11月に入っているということで3000m級の山に1人で行かせたくなかったので、天羽が同行した。中央アルプスはなかなか行く機会が無かったので、天羽にとっても都合が良かった。秋から冬へと移行する山は素晴らしかった。夏合宿に比べ、寺島の体力も向上していた。ただ、稜線上に水場が無いので気を付けたい。